

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-3

<40週> A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 - 定点当たり報告数が増加傾向にあり、今後、年末・年始のピークシーズンに向け患者数の増加が予想される / その他最新動向



注目すべき感染症
P.4

<腸管出血性大腸菌感染症> 第40週の報告数は101で、第40週時点での本年の累積報告数は3,928



病原体情報
P.5

患者から分離・検出された病原体報告 - Vero毒素産生性大腸菌 / 無菌性髄膜炎 / 手足口病 / 咽頭結膜熱



速報
P.6

「和風キムチ」を原因食品とする腸管出血性大腸菌O157集団感染事例 - 埼玉県



海外感染症情報
P.7

フロリダ州の炭疽 - 米国 / コンゴ民主共和国の髄膜炎菌感染症 / コートジボワールで黄熱流行 - 更新 / アンゴラの髄膜炎菌感染症 - 更新



感染症の話
P.8-10

天然痘
感染力、罹患率、致命率の高さは古くからよく知られていたが、1980年5月にWHOより世界根絶宣言が行われた



読者のコーナー
P.11

病原体の遺伝子解析について



グラフ総覧(40週)
P.12-18



40週のデータ
P.19-26



発生動向総覧

第40週コメント 10月12日集計分

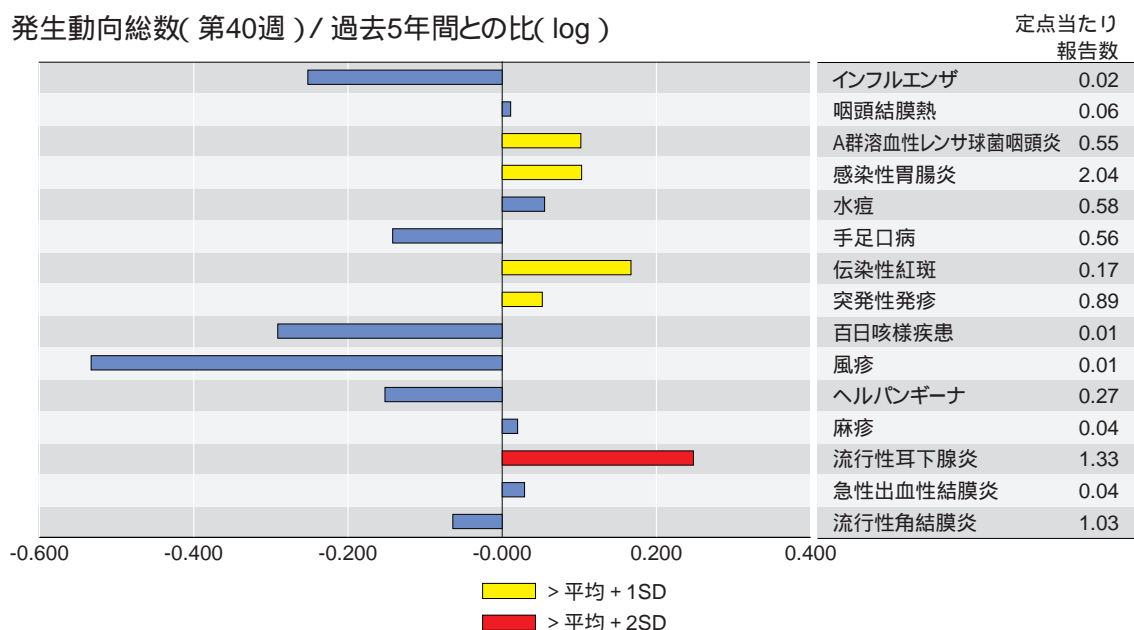
全数報告の感染症

- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: 細菌性赤痢23例(推定感染地: 国内3例、中国8例、ベトナム3例、インド、タイ各2例、北朝鮮、イラン、シリア、ペルー、メキシコ各1例。中国の8例は同一ツアー参加者からの集団発生事例) パラチフス1例(推定感染地: インド)
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症101例(うち22例が群馬県からの報告。腸管出血性大腸菌感染症の詳細な情報については4ページ「注目すべき感染症」を参照)
- 4類感染症: アメーバ赤痢5例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例(孤発性)、ジアルジア症1例(推定感染地: インド)、ツツガムシ病2例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、レジオネラ症1例
 - 急性ウイルス性肝炎10例
 - A型8例
 - B型2例__感染経路: 性行為1例、不明1例
 - 後天性免疫不全症候群9例(AIDS 2例、無症候性キャリア5例、その他2例)
 - 感染経路: 性行為7例(同性間3例、異性間4例)
 - 不明2例
 - 梅毒8例(無症候7例、先天梅毒1例)
 - マラリア2例 熱帯熱マラリア1例__推定感染地: インドネシア
 - 三日熱マラリア1例__推定感染地: インドネシア

定点把握の対象となる4類感染症(週報対象のもの)

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は第34週より定点当たり報告数が増加傾向にあり、第40週の定点当たり報告数は、過去5年間の同時期と比べやや多くなっている。今後、年末・年始のピークシーズンに向け患者数の増加が予想される。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、第19週よりここ10年間で最大の定点当たり報告数が持続している。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数が多くなっているのは、石川県(7.0) 富山県(4.2)などである。流行性角結膜炎は宮崎県で定点当たり報告数9.5、鹿児島県で4.0と多くなっている。

発生動向総数(第40週)/過去5年間との比(log)

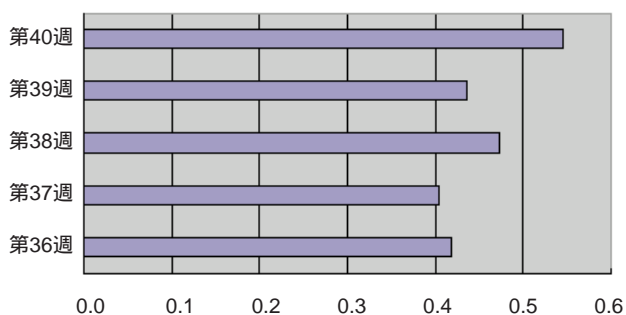


当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

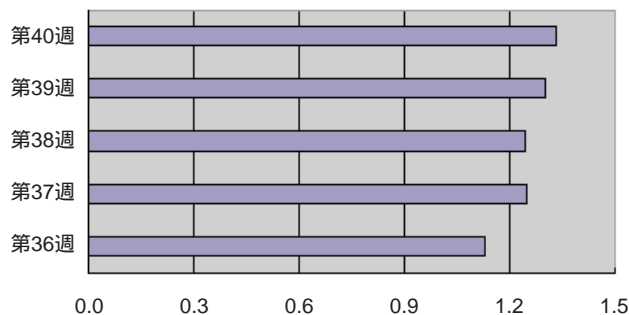
最近の注目疾患－5週間の動き

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は前週より増加し、ここ5週間では全体として緩やかな増加傾向を示しており、今後年末・年始のピークシーズンに向け患者数の増加が予想される。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は2週続けて増加し、最近5週間では、緩やかな増加傾向を示している。感染性胃腸炎、水痘の定点当たり報告数は前週を上回った。基幹病院定点からの報告疾患であるマイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は、前週とほぼ変わらない。

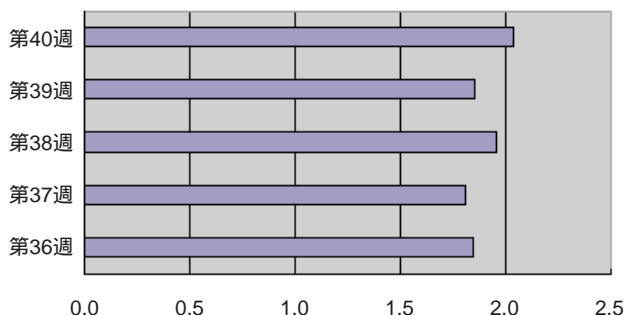
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



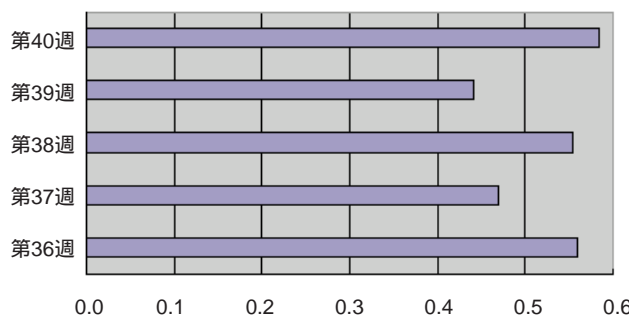
流行性耳下腺炎



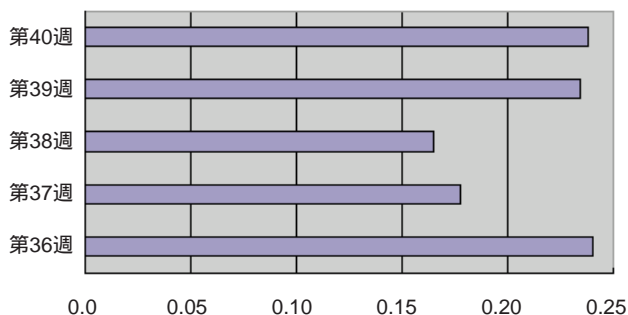
感染性胃腸炎



水痘



マイコプラズマ肺炎



(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数(報告総数/定点総数)を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。

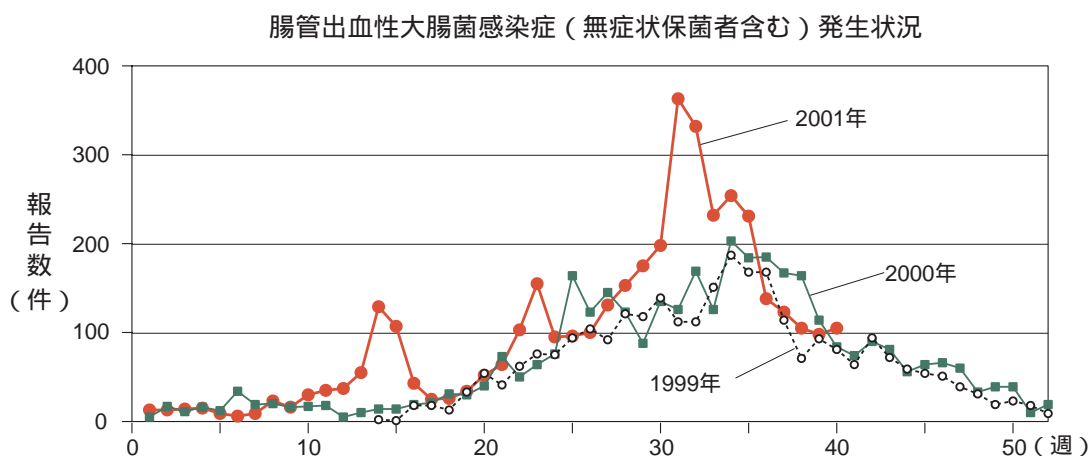
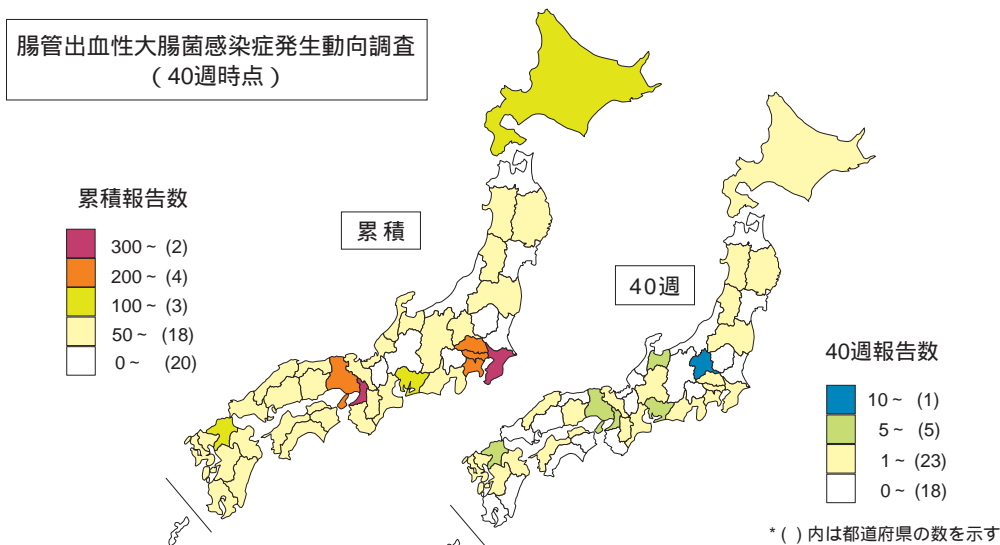


注目すべき感染症

腸管出血性大腸菌感染症流行状況

2001年には早期から複数のO157による集団感染事例が発生した影響で、昨年、一昨年に比べ早い時期から報告件数が多くなっている。第40週の報告数は101例で、都道府県別では、群馬県(22例)、愛知県、福岡県(各8例)、大阪府、兵庫県(各7例)などの報告が多かった。群馬県からは、保育施設でのO26の集団発生事例20例(うち有症者7)を含む22例が報告されている。101例のうち有症者は60例で、重症例、死亡例の報告は認められなかった。

第40週時点での本年の累積報告数は3,928例であり(昨年同期2,903)、都道府県別では千葉県(356例)、大阪府(320例)、東京都(299例)、神奈川県(255例)、兵庫県(248例)などからの報告が多い。本年度の累積報告数を年齢階級別にみると、0～4歳が最も多く(888例)、次いで5～9歳(552例)、10～14歳(349例)が多くなっている(病原体については5ページを参照)。



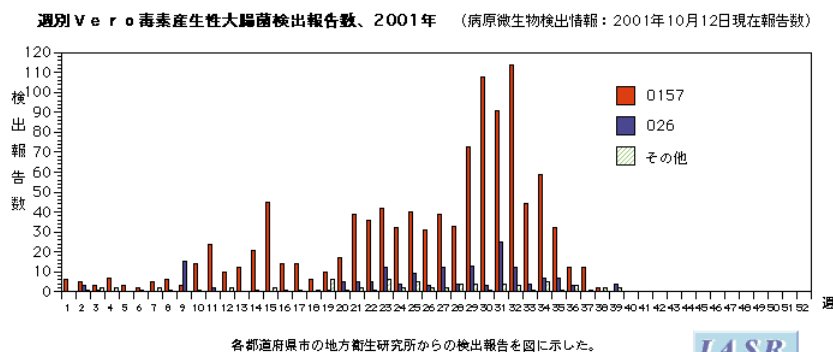


病原体情報

*グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの引用です。
(2001年10月12日現在報告分)

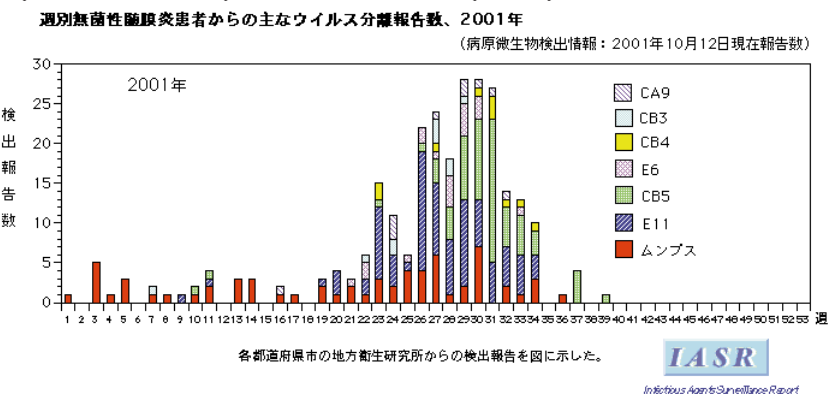
ヒトから分離されたVero毒素産生性大腸菌O157およびO26検出報告 2001年

本年のVero毒素産生性大腸菌の検出総数は、O157が1,065件、O26が165件である。最近では、O157が第38週に2件(秋田県1、富山県1)、O26が第39週に4件(山形県2、秋田県1、愛媛県1)の報告があった。



無菌性髄膜炎患者から分離されたウイルス 2001年

本年第19週以降に分離報告されたウイルスは、ムンプスウイルス42件(東京都12、新潟県7、広島県4、愛媛県4、大阪市3、京都市2、香川県2など)、エコーウイルス(E)116件(11型86、6型19、3型3、18型3、25型2、9型1、16型1、21型1)、B群コクサッキーウイルス(CB)85件(5型63、4型10、3型9、1型2、6型1)、A群コクサッキーウイルス(CA)11件(9型9、4型1、6型1)、エンテロウイルス71型(EV71)1件である。



手足口病患者から分離されたウイルス 2001年

本年第19週以降に分離報告されたウイルスは、CA16が100件(長野県13、愛知県12、愛媛県11、福岡県10、山形県9、埼玉県9、秋田県7、熊本県7など)、EV71が9件(長野県3、愛媛県3、東京都1、川崎市1、広島県1)、CA6が12件(島根県7、奈良県4、愛媛県1)、CA4が9件(香川県6、秋田県2、島根県1)、CA8が2件(香川県2)、CA2が1件(長野県1)、CA5が1件(秋田県1)、CA10が1件(島根県1)、CB4が1件(北九州市)、CB5が1件(滋賀県1)、E11が5件(広島市4、熊本市1)である。

咽頭結膜熱患者から分離されたウイルス 2001年

本年第19週以降に分離報告されたウイルスは、アデノウイルス3型114件(仙台市26、長野県21、新潟県14、愛知県8、愛媛県8、兵庫県5、東京都4、川崎市4、奈良県4、札幌市3、岡山県3、大分県3など)、2型24件(仙台市11、長野県3、兵庫県3、新潟県3など)、1型8件(愛知県2、広島市2、兵庫県、北九州市、熊本県、熊本市各1)、4型9件(兵庫県4、札幌市2、新潟県2、福岡市1)、5型6件(兵庫県2、仙台市、岡山県、島根県、北九州市各1)、7型3件(北九州市3)である。



「和風キムチ」を原因食品とする腸管出血性大腸菌O157集団感染事例 - 埼玉県

埼玉県内にある全寮制の児童自立支援施設M学院の生徒等13名が、2001年8月24日から食中毒様症状を呈し、うち5名が入院した。患者および関係者90名の細菌検査により、29名から腸管出血性大腸菌(EHEC) O157:H7 Stx1&2産生株が分離された。菌が検出された29名のうち、22名は無症状であったことや、M学院内の生活環境の特殊性等から、給食による集団食中毒のほか、それ以外の感染様式についても検討された。

給食の保存検食(8月14～18日、20～24日分)および環境材料から当該菌は検出されなかったが、喫食調査等から8月20日の夕食、または21日の朝食が原因食品として疑われたため、埼玉県ではこれらのメニューに含まれる食品の遡り調査を実施した。一方、同時期に東京都内の複数の家族で発生したEHEC O157食中毒の原因食品として、埼玉県内で製造された「和風キムチ」が疑われる旨、東京都から埼玉県に連絡があった。

この「和風キムチ」は、M学院の8月20日の夕食メニューの「キムチ納豆」にも使われていたことから、埼玉県では一連のEHEC O157食中毒の原因食品として疑い、さらに調査が進められた。被害の拡散防止のため、8月1日以降に当該施設で製造された全製品を自主回収するとともに、報道により一般家庭へ注意を呼びかけた。

回収品、原材料および施設のふきとり等の検査材料が多数搬入されたが、発症者が喫食した「和風キムチ」と同時期に製造された製品は含まれておらず、O157は検出されなかった。当該「和風キムチ」は通常のキムチとは製造方法が異なり、発酵工程がなく、いわゆる浅漬法で、賞味期間が5～14日間と比較的短いこと等から、8月20日前後に喫食された「和風キムチ」は、すでに消費あるいは廃棄されているものと思われた。

そのような状況下、報道によって事件を知ったEHEC O157患者宅から「和風キムチ」の残品が搬入され、この25gからO157 Stx1&2産生株が分離された。なお、-20℃に凍結保存した検体の残り10gを用いてMPN 3本法を直ちに実施したが、MPN値は<0.3/gであった。

そのほか、東京都立衛生研究所とのパルスフィールド・ゲル電気泳動(PFGE)画像のメールによる情報交換、および菌株の交換によるDNAパターンの比較解析が同時に進められ、M学院の患者、東京都の患者、および「和風キムチ」のそれぞれの分離株のXbaI処理によるPFGEパターンが一致した。

さらに、同時期に埼玉県内で発生した散発事例のうち、PFGEパターンが一致しているEHEC O157患者の喫食に関する再調査で、同一メーカーの「和風キムチ」を食べていた人の存在が確認され、今回の事例は「和風キムチ」を原因食品とするdiffuse outbreakであったことが明らかとなった。

県内各機関ならびに自治体間の協力体制と、報道による情報公開が解決に効果を発揮した事例であった。「和風キムチ」の汚染原因については、現在調査中である。

埼玉県衛生研究所

齋藤章暢 大塚佳代子 倉園貴至 尾関由姫恵 山口正則 岸本 剛 青羽信次

埼玉県中央保健所

埼玉県大宮保健所

埼玉県鴻巣保健所

(IASR2001年11月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)



海外感染症情報

* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ(<http://www.forth.go.jp/>)をご覧ください。

フロリダ州の炭疽 - 米国

WHO/CSR 2001年10月10日、2001年10月11日

WHOは、フロリダ州保健局に協力しているCDCから、10月5日にフロリダで死亡した男性が肺炭疽であったことを確認したと報告を受けた。2例目の男性は同僚であり、医療機関に申し出て検査の結果、鼻腔から炭疽菌が確認された。二人はフロリダのボカトン(Boca Raton)にある新聞事務所で勤務していた。職場環境から採取された多くの検体のうちの1検体から、炭疽菌陽性の結果を得た。他の場所からの検体の最終結果が出るまでには、数日間かかると予想される。しかしながらCDCは、他の従業員や訪問者への危険性は極めて少ないと評価した。

10月11日までに新たに1人の炭疽菌陽性例が確認された。炭疽菌が確認された人の数は、10月5日に死亡した男性1名を含めて3名となった。

さらに詳細な情報は以下のウェブサイトを参照されたい。CDC fact sheet(<http://www.bt.cdc.gov/Agent/Anthrax/Anthrax.asp>)、およびWHO Guidelines for the Surveillance and Control of Anthrax in Humans and Animals(<http://www.who.int/emc-documents/zoonoses/whoemczdi986c.html>)

コンゴ民主共和国の髄膜炎菌感染症

WHO/CSR 2001年10月10日

South-Kivu州のKatana保健区で、死亡27例を含む283例の髄膜炎菌感染症の発生がWHOに報告された。

国際的な救助組織であるInternational Rescue Committeeが、WHOおよび保健省とともに流行を征圧するために従事しており、流行地での学童や医療従事者を対象としたワクチン接種キャンペーンが行われている。WHOは3万人分のワクチンと1,000人分のクロラムフェニコールを提供しているが、この保健区で広範囲にわたる住民を対象としてワクチン接種を行うために、追加のワクチンを探している。他の対策としては、住民の動員、衛生教育、医療従事者の訓練などである。

コートジボワールで黄熱流行 - 更新

WHO/CSR 2001年10月10日

10月8日現在保健省は、コートジボワールの20地区で、死亡21例を含む黄熱疑い患者203例を報告した。そのうち23例が検査で診断が確定している。首都アビジャンでは死亡7例を含む黄熱疑い患者55例が報告され、そのうち7例が確定診断されている。

アフリカで10年ぶりとなる都市型黄熱流行に対応して、多数の死亡例の発生など深刻な事態が予想されるため、9月21日に290万人を対象とした大規模ワクチンキャンペーンが開始され、10月2日に終了した。暫定的なデータでは、10日間のキャンペーン中に2,610,994人がワクチン接種を受けたとされる。接種に伴う副反応サーベイランスでは59例が報告された。これらの人々も軽症で、死亡例は発生しなかった。

アンゴラの髄膜炎菌感染症 - 更新

WHO/CSR 2001年10月10日

アンゴラからWHOに、10月2日までに、死亡30例を含む332例の髄膜炎菌感染症が発生したと報告された。主な流行地域は、Benguela, Cunene, Luanda, Lunda Sul およびCuando Cubangoである。髄膜炎の流行は、今年初めBenguela州のBalombo地区で報告されたが、現在は終息しており、ワクチン接種キャンペーンが続けられている。Cunene州から患者発生の報告が続いている。しかしながら最新の情報では、1週間の患者数は減少傾向を示している。保健省とWHOの合同調査チームは、緊急援助物資の入手法の改善を含めて、疫学サーベイランスおよび流行に対する準備や対応能力をアンゴラで強化する必要がある、との結論に至った。



感染症の話

天然痘(痘瘡、smallpox、variola)

天然痘は紀元前より、伝染力が非常に強く死に至る疫病として人々から恐れられていた。また、治癒した場合でも顔面に醜い癍痕が残るため、江戸時代には「美目定め病」と言われ、忌み嫌われていたとの記録がある。天然痘ワクチンの接種、すなわち種痘の普及によりその発生数は減少し、WHOは1980年5月天然痘の世界根絶宣言を行った。以降これまでに世界中で天然痘患者の発生はない。

疫学

天然痘の感染力、罹患率、致命率の高さは古くからよく知られていた。1663年米国では、人口およそ4万人のインディアン部落で流行があり、数百人の生存者を残したのみであったこと、1770年のインドの流行では300万人が死亡したなどの記録がある。Jennerによる種痘が発表された当時(1796年)、英国では45,000人が天然痘のために死亡していたといわれる。我が国では明治年間に、2~7万人程度の患者数の流行(死亡者数5,000~2万人)が6回発生している。第二次大戦後の1946(昭和21)年には18,000人程の患者数の流行がみられ、約3,000人が死亡しているが、緊急接種などが行われて沈静化し、1956(昭和31)年以降には国内での発生はみられていない。

1958年世界天然痘根絶計画が世界保健機構(WHO)総会で可決された。当時世界33カ国に天然痘は常在し、発生数は約2,000万人、死亡数は400万人と推計されていた。ワクチンの品質管理、接種量の確保、資金調達などが行われ、常在国での100%接種が当初の戦略として取られた。しかし、接種率のみを上げても発生数は思うように減少しなかったため、「患者を見つけ出し、患者周辺に種痘を行う」という、サーベイランスと封じ込め(surveillance and containment)に作戦が変更された。その効果は著しく、1977年ソマリアにおける患者発生を最後に地球上から天然痘は消え去り、その後2年間の監視期間を経て、1980年5月WHOは天然痘の世界根絶宣言を行った。その後も現在までに患者の発生はなく、天然痘ウイルスはアメリカとロシアのバイオセーフティーレベル(BSL)4の施設で厳重に保管されている。

病原体

天然痘ウイルス(Poxvirus variolae)は200~300nmのエンベロープを有するDNAウイルスで、牛痘ウイルス、ワクシニアウイルス、エクトロメリアウイルスなどとともに、オルソポックスウイルスに分類される。低温、乾燥に強く、エーテル耐性であるが、アルコール、ホルマリン、紫外線で容易に不活化される。

臨床的には天然痘は致命率が高い(20~50%)variola majorと、致命率が低い(1%以下)variola minorに分けられるが、増殖温度を除きウイルス学的性状は区別できない。

臨床症状(図1)

感染は飛沫感染による。およそ12日間(7~16日)の潜伏期間を経て、急激に発熱する。臨床症状は以下のようなステージに分けられる。

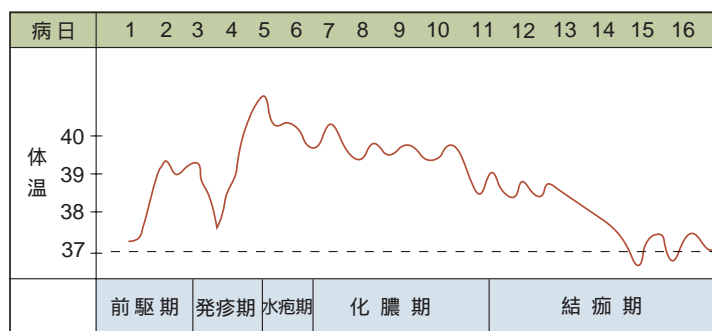


図1. 天然痘の臨床経過

[前駆期] 急激な発熱(39 前後)、頭痛、四肢痛、腰痛などで始まり、発熱は2～3日で40 以上に達する。小児では吐気・嘔吐、意識障害なども見られることがある。麻疹あるいは猩紅熱様の前駆疹を認めることもある。第3～4病日頃には一時解熱傾向となる。

[発疹期] 発疹は、紅斑 丘疹 水疱 膿疱 結痂 落屑と規則正しく移行する。発疹は顔面、頭部に多いが、全身に見られる。水疱性の発疹は水痘の場合に類似しているが、水痘のように各時期の発疹が同時に見られるのではなく、その時期に見られる発疹はすべて同一であることが特徴である(図2)。水疱に臍窩が見られるのも水痘との相違点であり、かつて「ヘソがあるのは天然痘、ヘソのないのは水ぼうそう」と伝えられた。第9病日頃に膿疱となるが、このころには再び高熱となり、結痂するまで続く。また、疼痛や灼熱感が強い。痂皮形成後に熱は下降するが、疼痛は続き、嚥下困難、呼吸障害なども見られる。治癒する場合は2～3週間の経過であり、色素沈着や瘢痕を残す。



図2. 天然痘の典型的な発疹 (WHO資料より)

痂皮が完全に脱落するまでは感染の可能性があり、隔離が必要である。

致死率はvariola majorでは20～50%、variola minorでは1%以下である。死亡原因は主にウイルス血症によるものであり、1週目後半ないし2週目にかけての時期に多い。その他の合併症として皮膚の二次感染、蜂窩織炎、敗血症、丹毒、気管支肺炎、脳炎、出血傾向などがある。出血性のもは予後不良となりやすい。

病原診断

血液、唾液、水疱・膿疱内容物、痂皮などを検査材料として、ウイルス分離、抗原検出を行う。光学顕微鏡による封入体基本小体の観察、電子顕微鏡によるウイルスの観察なども診断の手段となる。PCR法での迅速診断が可能であるが、国立感染症研究所ウイルス1部外来性ウイルス室で用意されている。

治療・予防

治療は対症療法が中心となる。予防法は痘苗を接種すること、すなわち種痘であるが、天然痘が根絶された現在、種痘を行っている国はない。

英国の開業医 Edward Jenner が天然痘の予防法として種痘(vaccine)を発明したのは、1796年のことである。英国ではその頃乳牛にとどき牛痘(cow pox)が流行し、これに感染した乳搾りの女性は天然痘に感染しないことが知られていた。そこで Jenner は、乳搾りの女性から牛痘の発疹内容液を取り、8歳の少年の腕に傷を付けてこれを接種したが、その6週後に天然痘の膿を接種しても何も反応がみられなかったことが、重大な発見のきっかけとなった。その後、この牛痘ワクチンはヒトからヒトへと植え継がれ、種痘は広がっていった(図3)。種痘が普及した国々では次第に天然痘の発生は治まっていったが、インド亜大陸、インドネシア、ブラジル、アフリカ中南部、エチオピアなどは常在地であった。

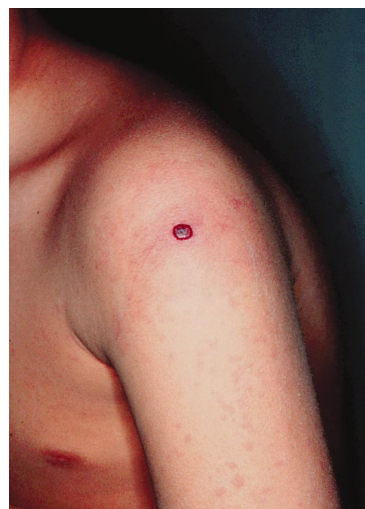


図3. 種痘部位の反応(接種の跡がはっきりと付いて免疫が獲得されたことを示し、“善感”と言う)

わが国にこの牛痘由来の痘苗がもたらされたのは1848年のことである。1885(明治18)年には内務省告示として種痘施術心得書が出されている。1946(昭和21)年には18,000人に近い数の流行がみられたが、緊急接種などが行われて沈静化し、1956(昭和31)年以降には国内での発生はみられていない。

種痘後には10～50万人接種あたり1人の割合で脳炎が発生し、その致死率は40%と高い。その他にも全身性種痘疹(図4)、湿疹性種痘疹、接触性種痘疹などの副反応が知られていた。1976年我が国では、それまで使用されていたリスター株を改良したLC16m8株が開発され(千葉県血清研究所)弱毒痘苗として採用されたが、同年我が国では定期接種としての種痘を事実上中止したため、実用には至らなかった。さらに、WHOによる天然痘根絶宣言により、1980(昭和55)年には法律的にも種痘は廃止され、現在に至っている。



図4. 種痘の副作用(全身性種痘疹)

感染症法における取り扱い

天然痘は、旧伝染病予防法では法定伝染病に規定されていたが、世界的に根絶されたため、1999年施行の感染症法では対象疾患から削除されている。仮に患者が発生したとすれば、指定感染症として扱われることが予想される。

(国立感染症研究所感染症情報センター 岡部信彦)



読者のコーナー

Q: 感染症の確定診断には病原体の分離が重要です。検体の採取に際しては、今までも患者さんの了解を得て行って来た処です。近年、病原体の遺伝子解析が公衆衛生上非常に重要になり、これに基づいて病原性大腸菌O157やMRSAの感染源や感染経路を明らかにし、行政対応するようになりつつあります。

平成12年4月「遺伝子解析研究に付随する倫理問題等に対応するための指針」が出されました。前文などからこの指針はヒト固有の遺伝子解析を対象としていると読みとれます。しかし、用語の定義を見ますと、この指針が対象とする「試料等」とは、「研究に用いる血液、組織、細胞、体液および排泄物やこれらから抽出したDNAなどヒトの体の一部をいう」となっています。病原体をヒトの体の一部と見る事も可能であり、病原体を分離するために採取した便、尿、脊髄液、血液などは、文章上はズバリそのものです。

病原体の遺伝子解析がこの指針の対象となるのかどうか、判断を迷っている状況がありますので、この点について厚生労働省としての明確な判断の提示をお願いしたいと思います。

(地方衛生研究所研究員)

病原体の遺伝子解析について

本年3月に策定された「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」は、指針の2〔本指針の適用範囲〕及び14〔3〕用語の定義に記載のとおり、次のような研究を対象とします。

提供者の個体を形成する細胞に共通して存在し、その子孫に受け継がれ得るヒトゲノム及び遺伝子の構造又は機能を、試料等を用いて明らかにしようとする研究

したがって、お尋ねのように人の血液等の試料に含まれる病原体を対象とする研究は、この指針の適用を受けることはありません。

(厚生労働省大臣官房厚生科学課)

追記

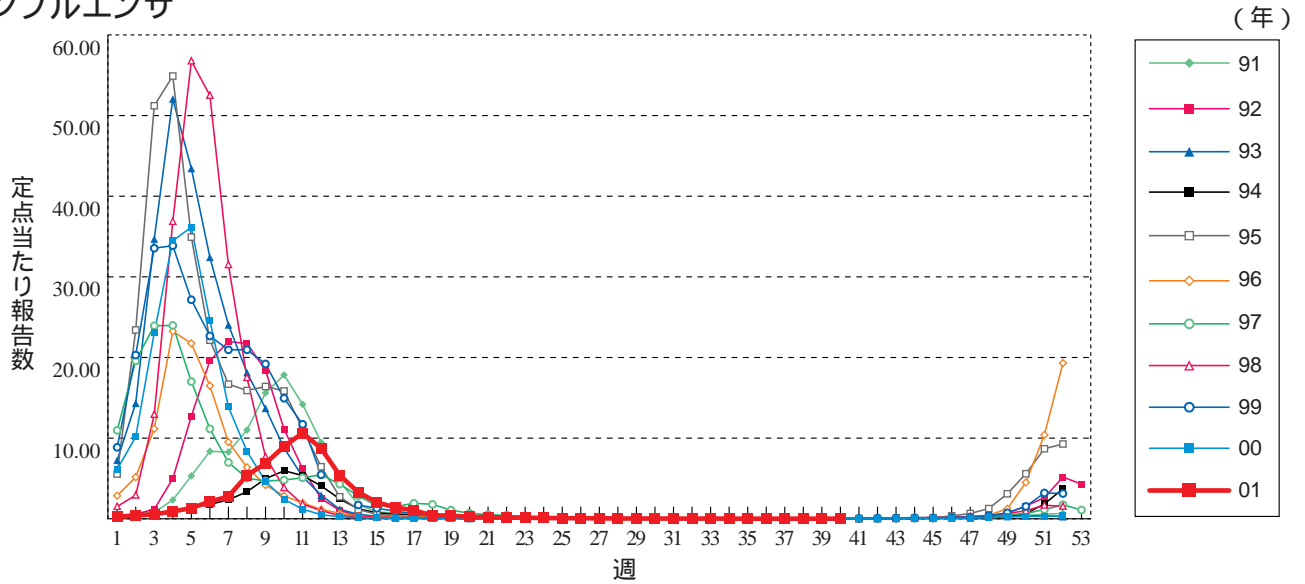
炭疽によるバイオテロリズムを想定したガイドライン「CDC Guidelines for State Health Departments, Revised October 14, 2001」を入手しております。疑いのある郵便物を受け取った時の対応、炭疽に暴露された可能性がある人への対応、炭疽の臨床症状、可能性ある検体を扱う検査室での注意事項などが述べられています。希望者は電子メールにて木村まで(kimumiki@nih.go.jp)

「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-QをつけてこちらまでEメールでどうぞ。

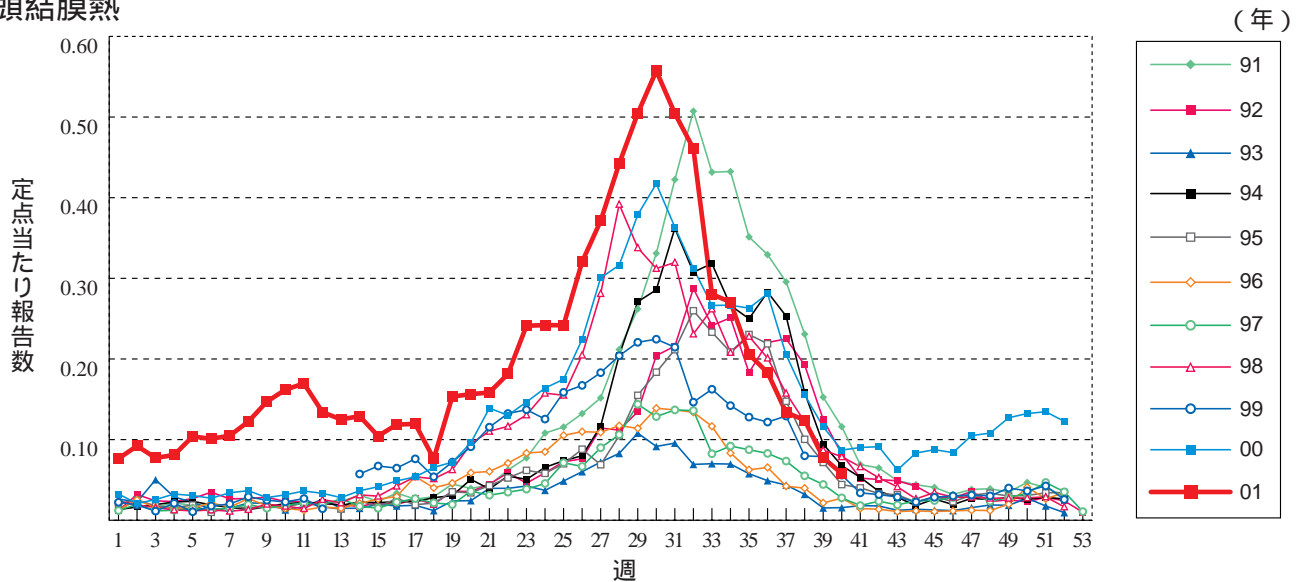
idsc-query@nih.go.jp

グラフ総覧(40週)

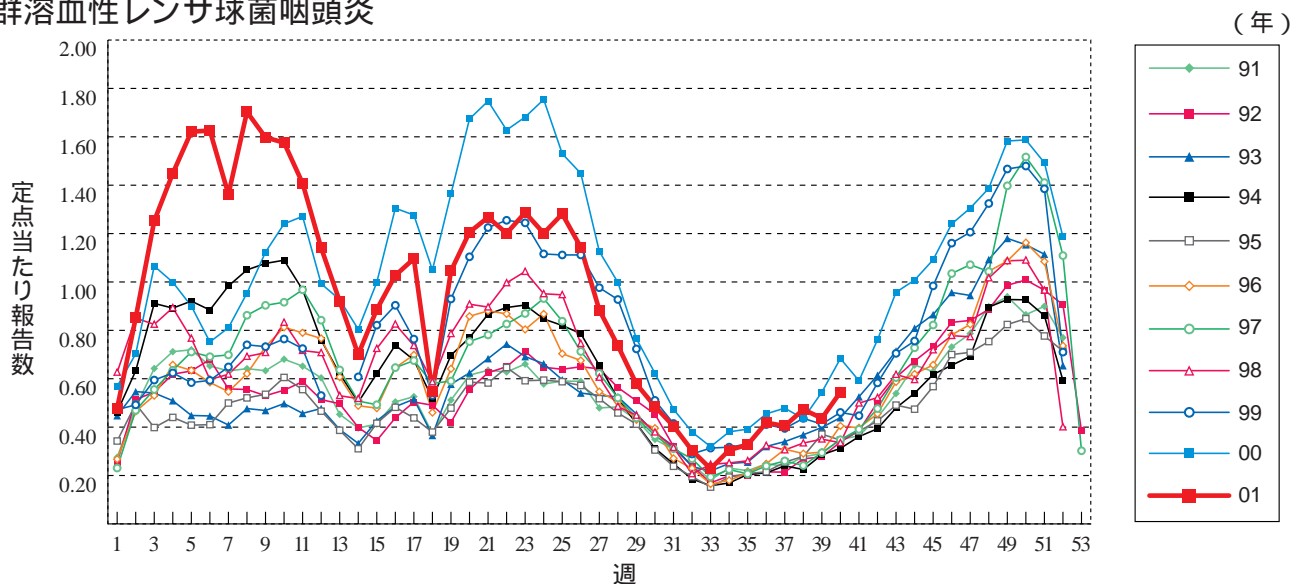
インフルエンザ



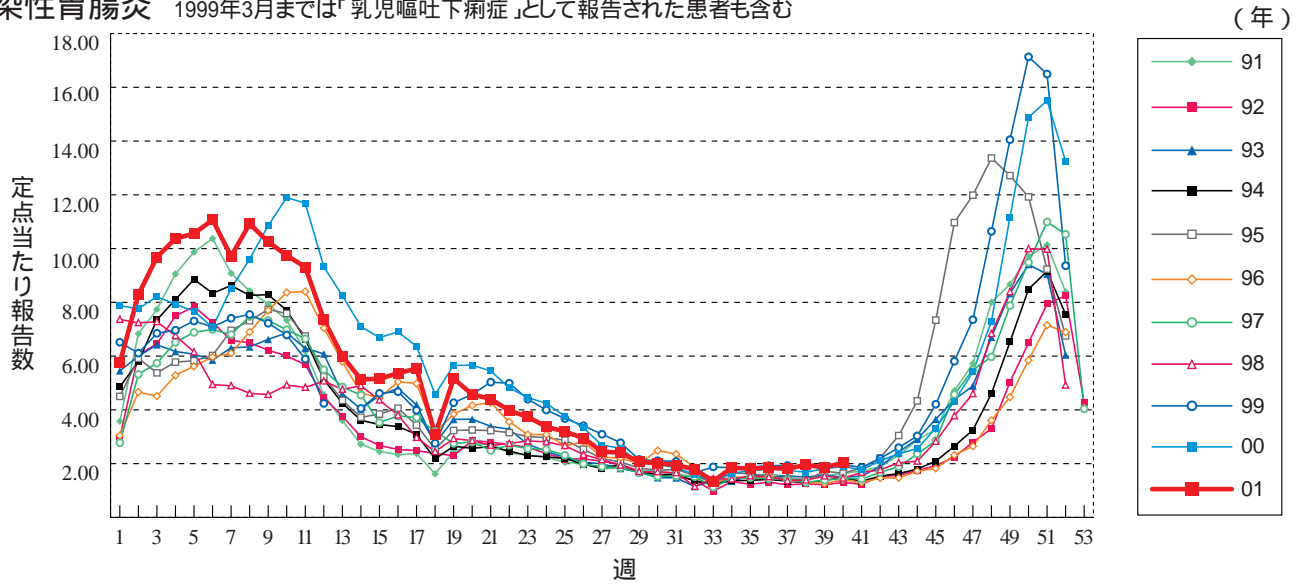
咽頭結膜熱



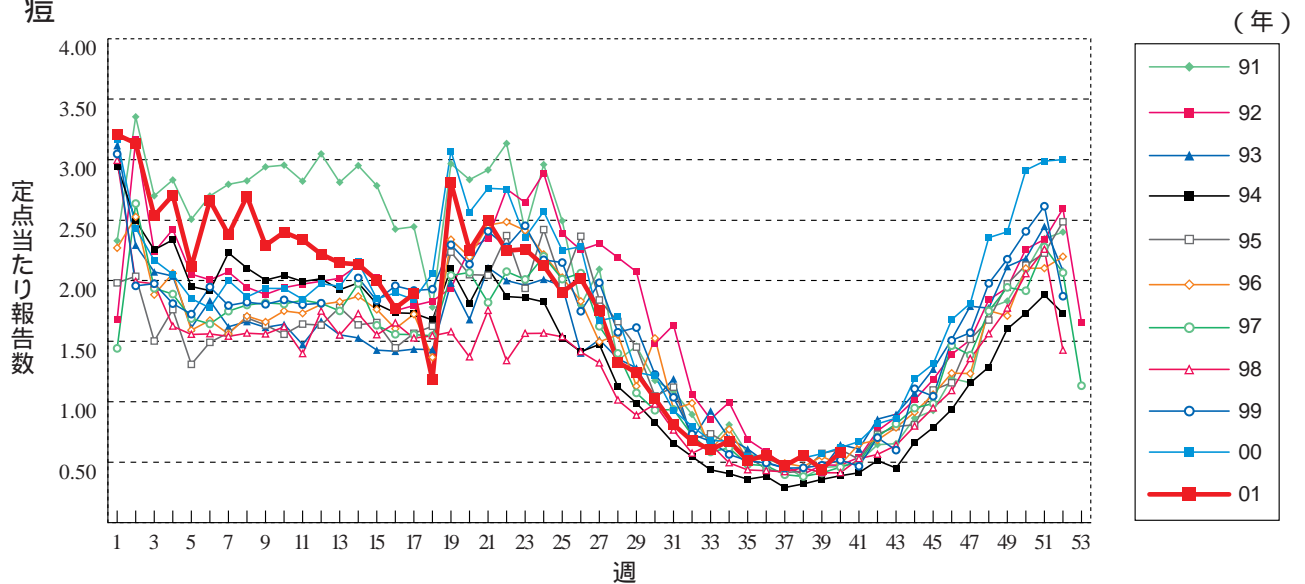
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



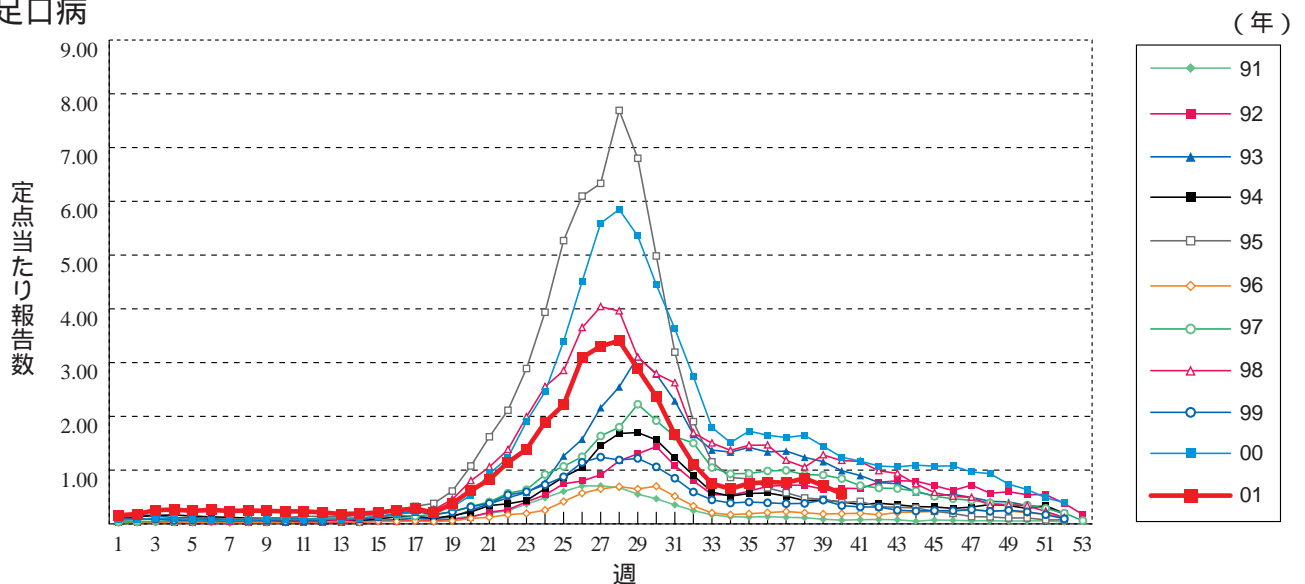
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



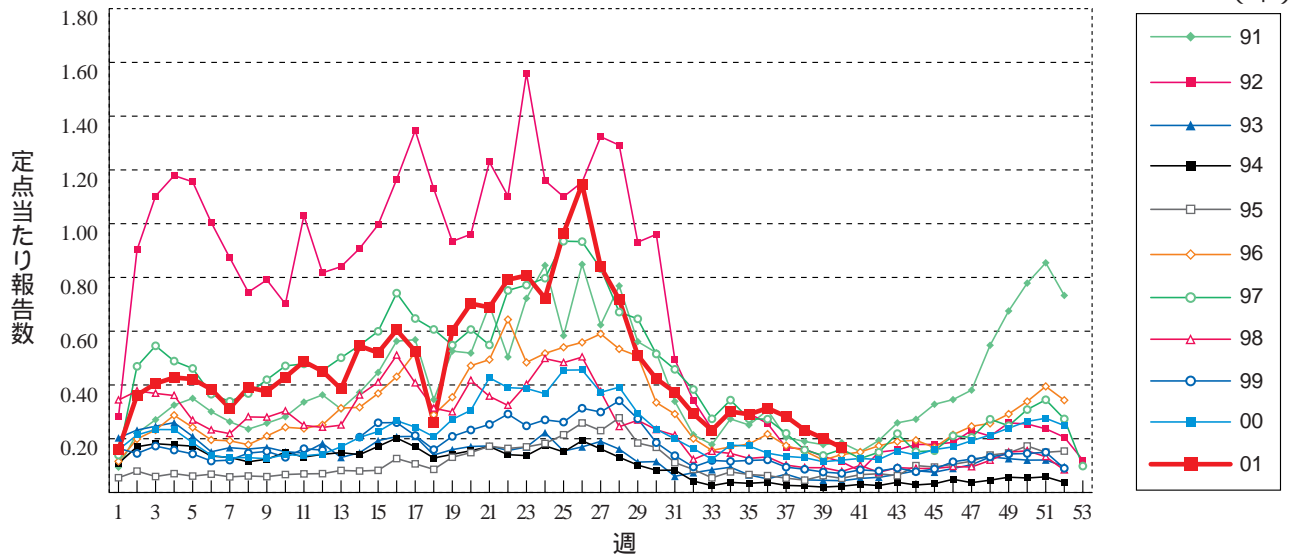
水痘



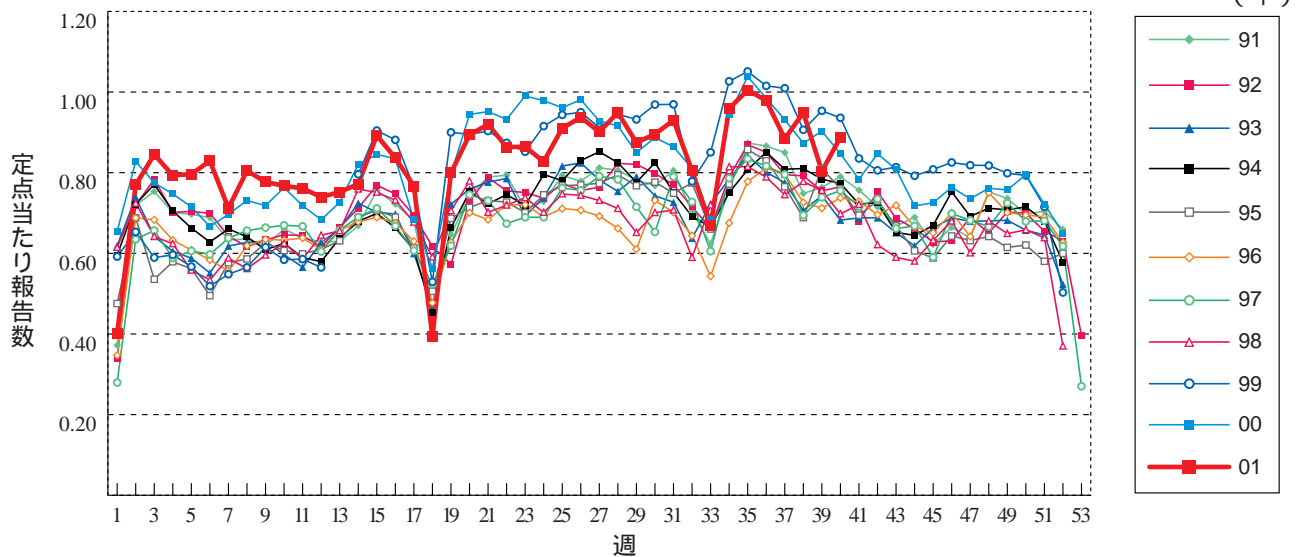
手足口病



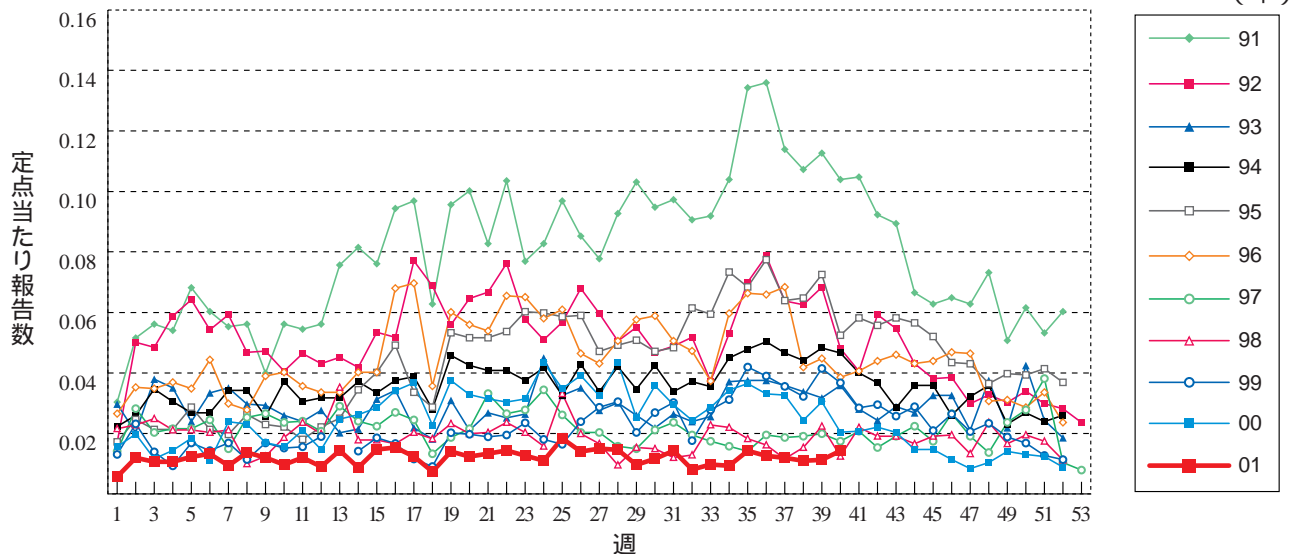
伝染性紅斑



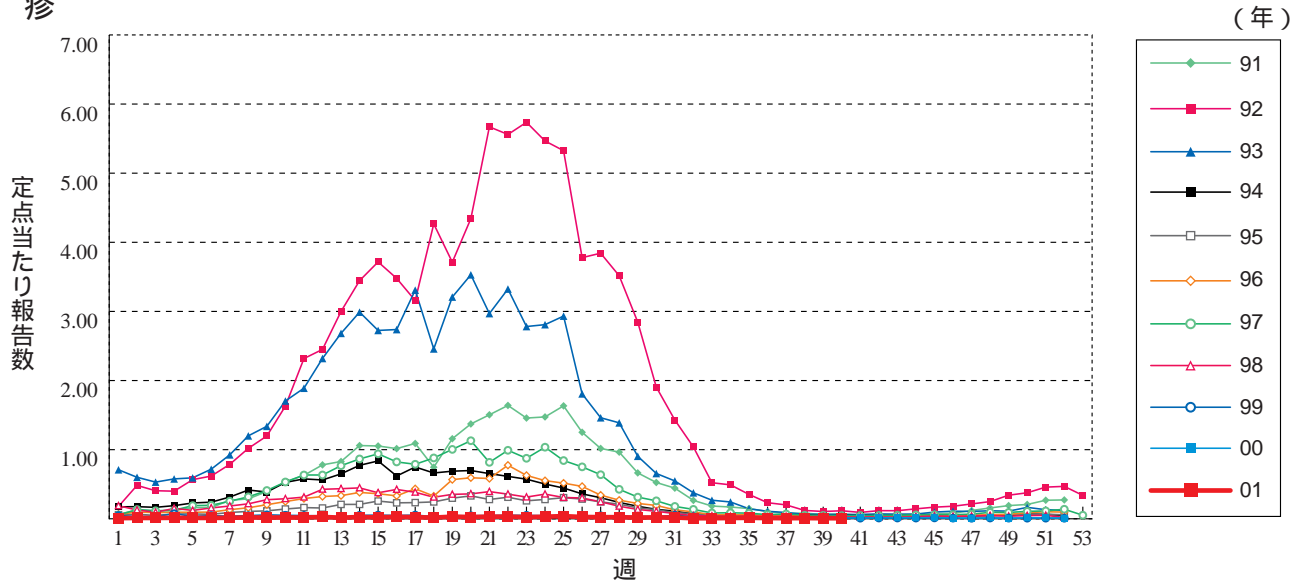
突発性発疹



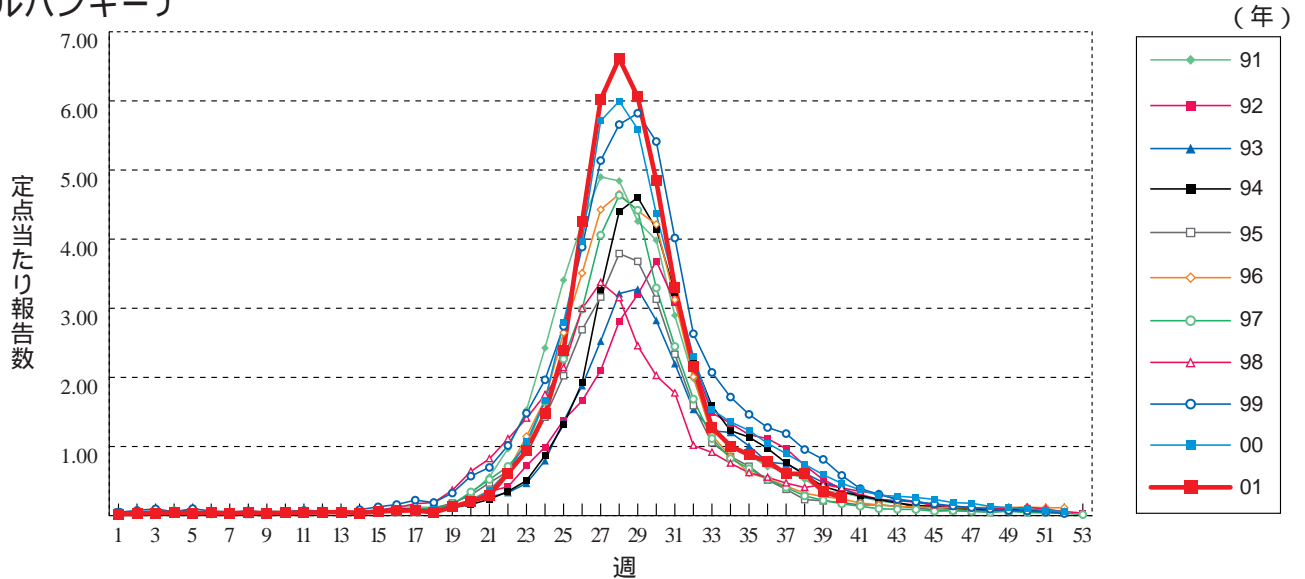
百日咳



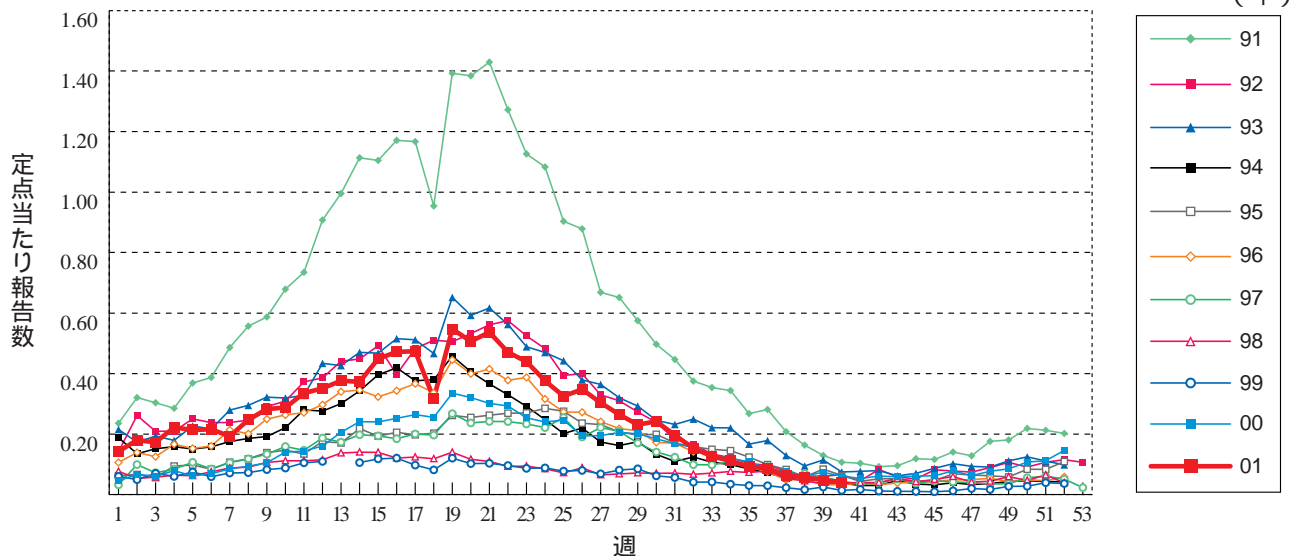
風 疹



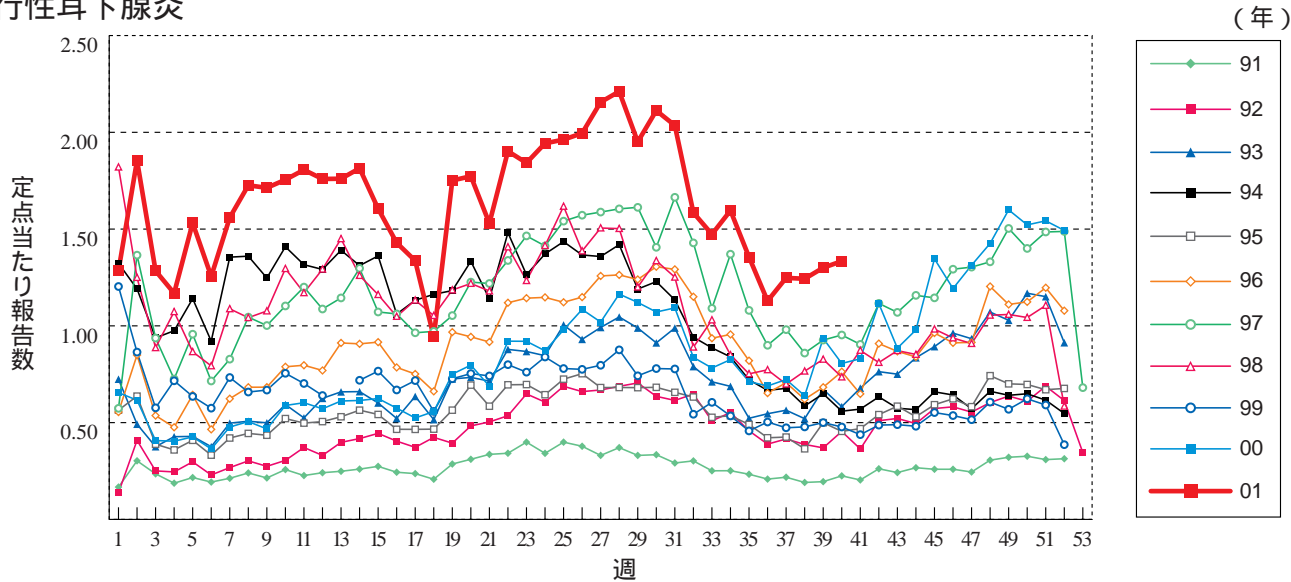
ヘルパンギーナ



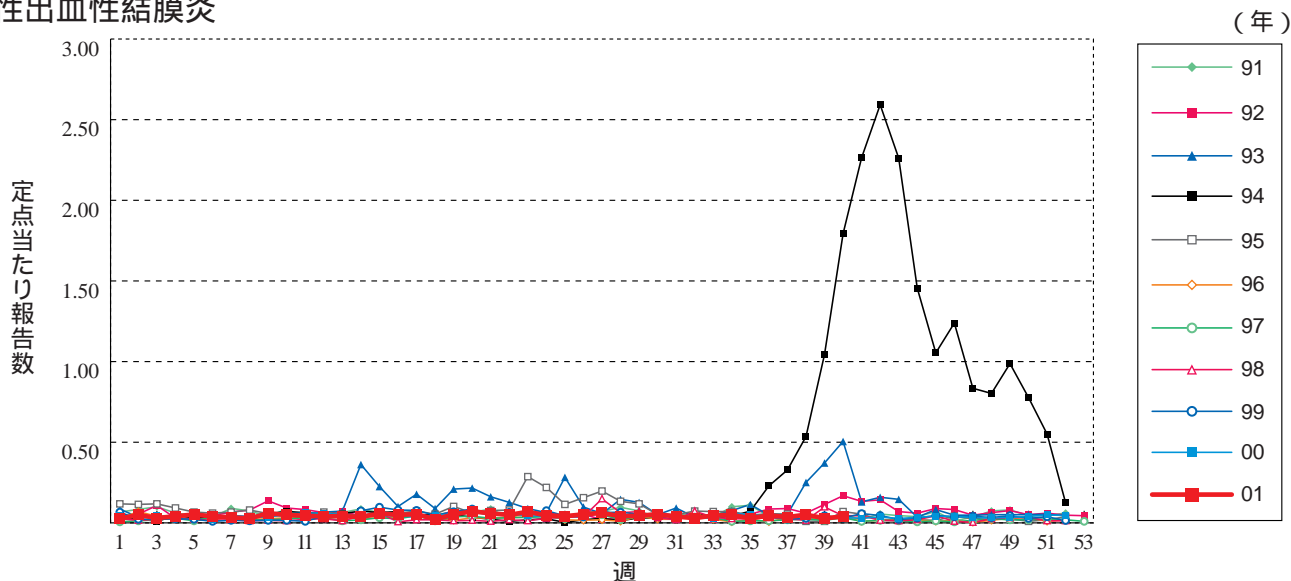
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



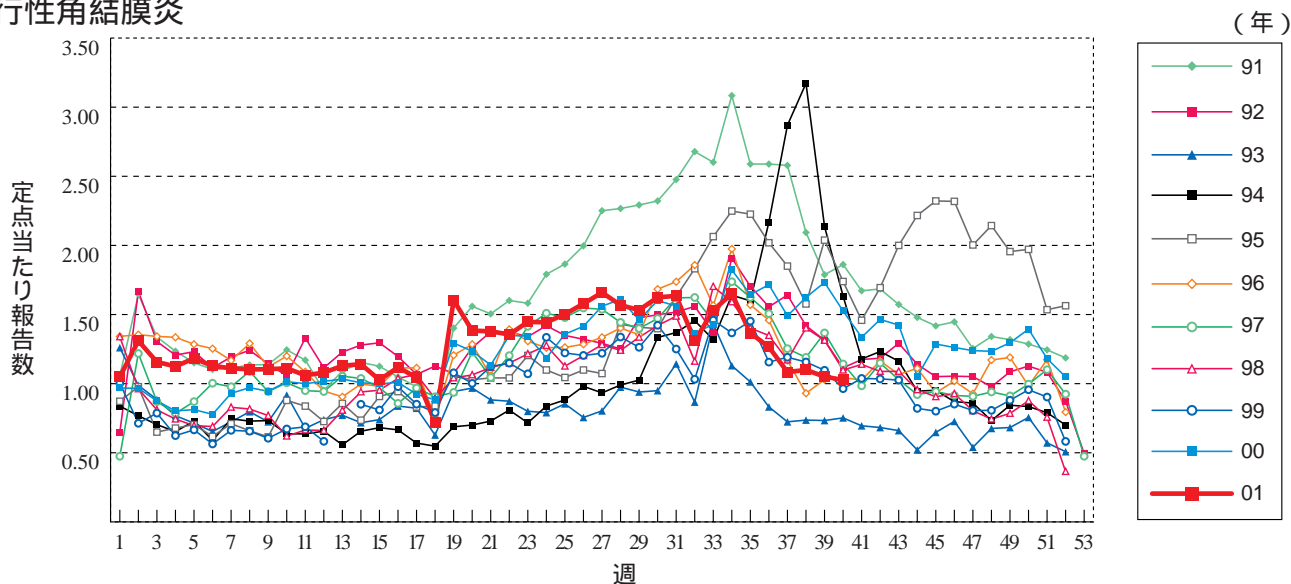
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

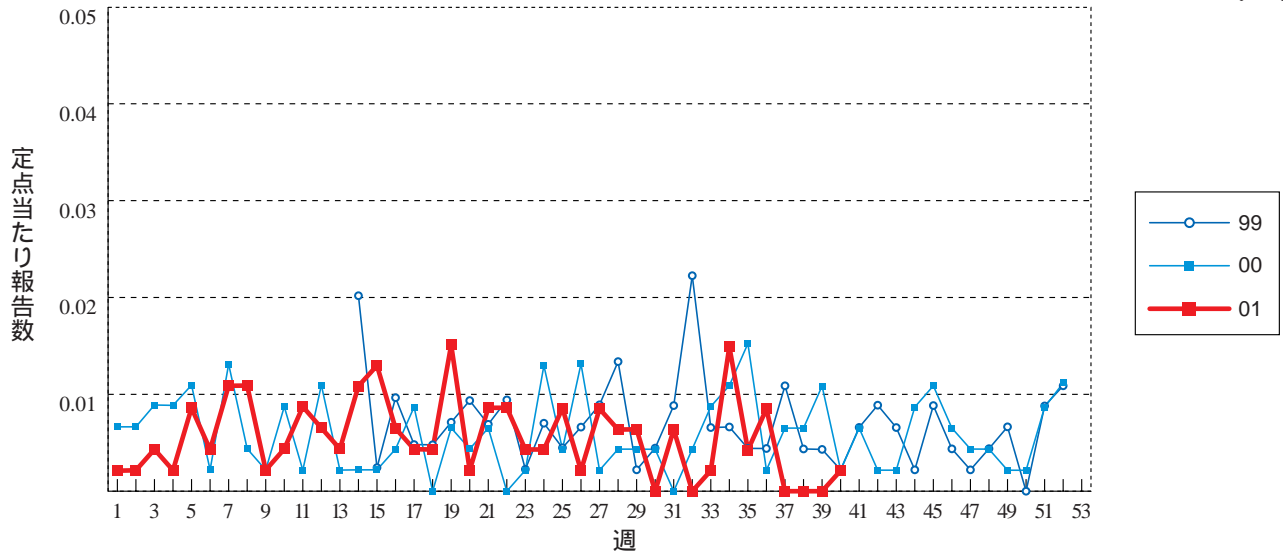


流行性角結膜炎



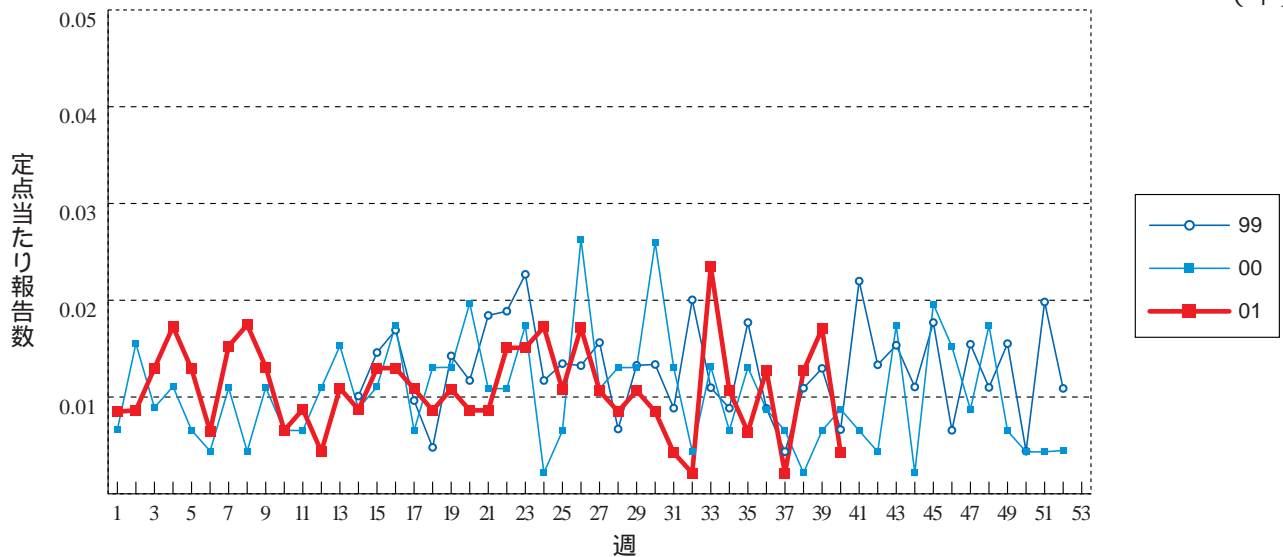
急性脳炎 (日本脳炎を除く)

(年)



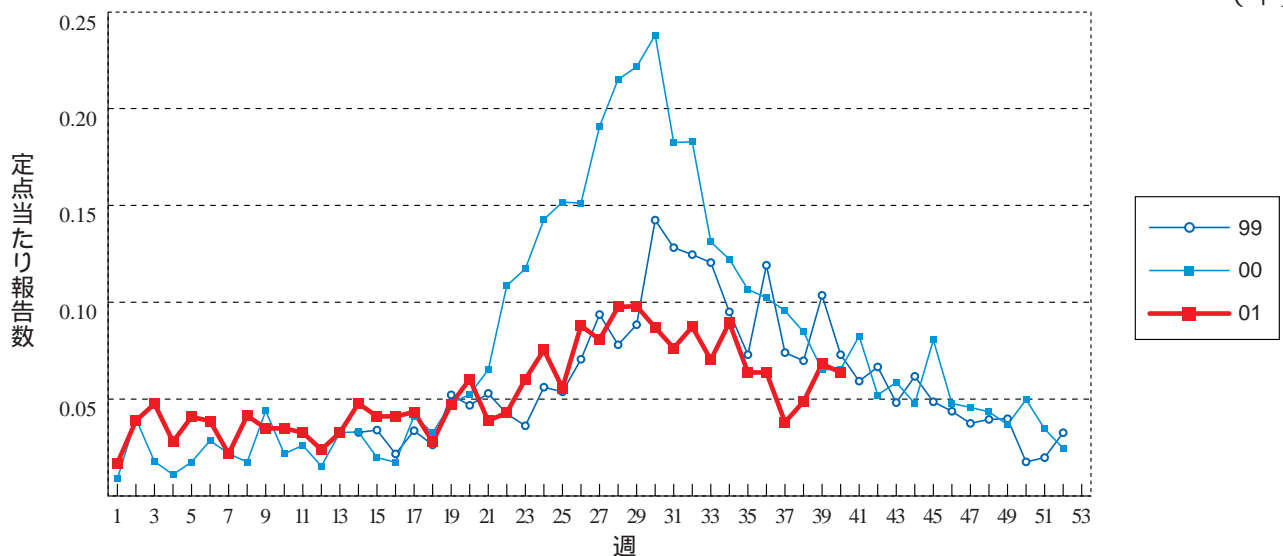
細菌性髄膜炎

(年)



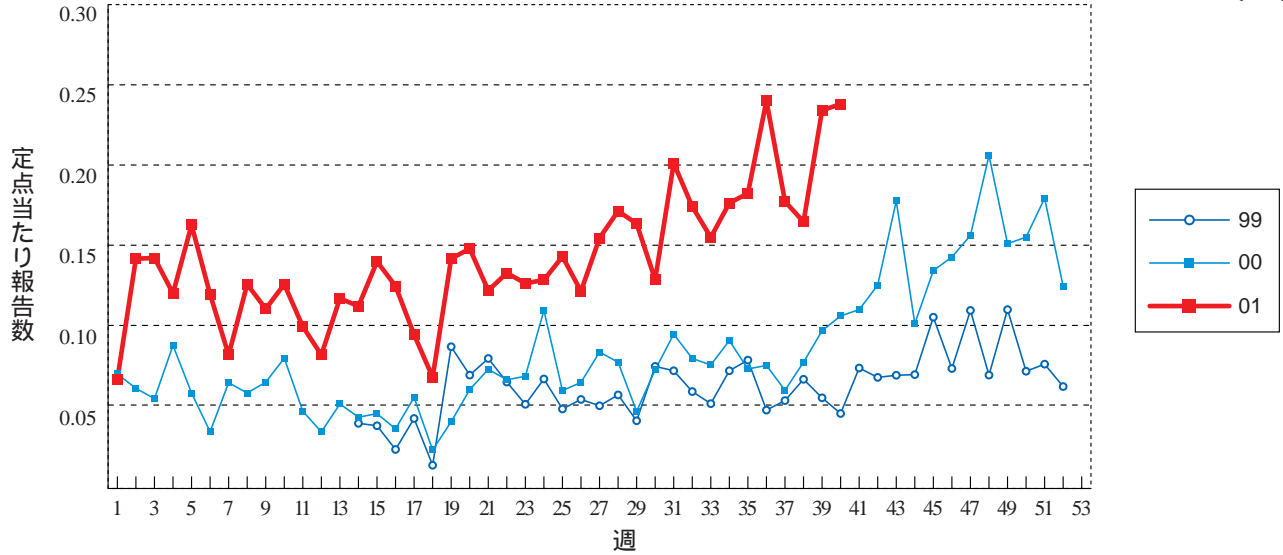
無菌性髄膜炎

(年)



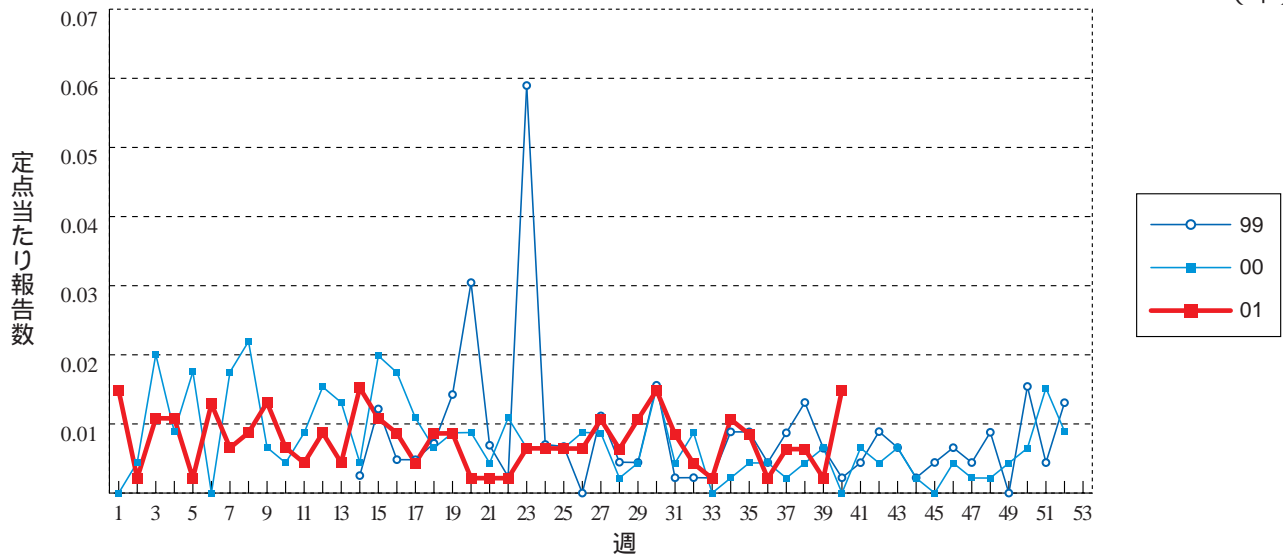
マイコプラズマ肺炎

(年)



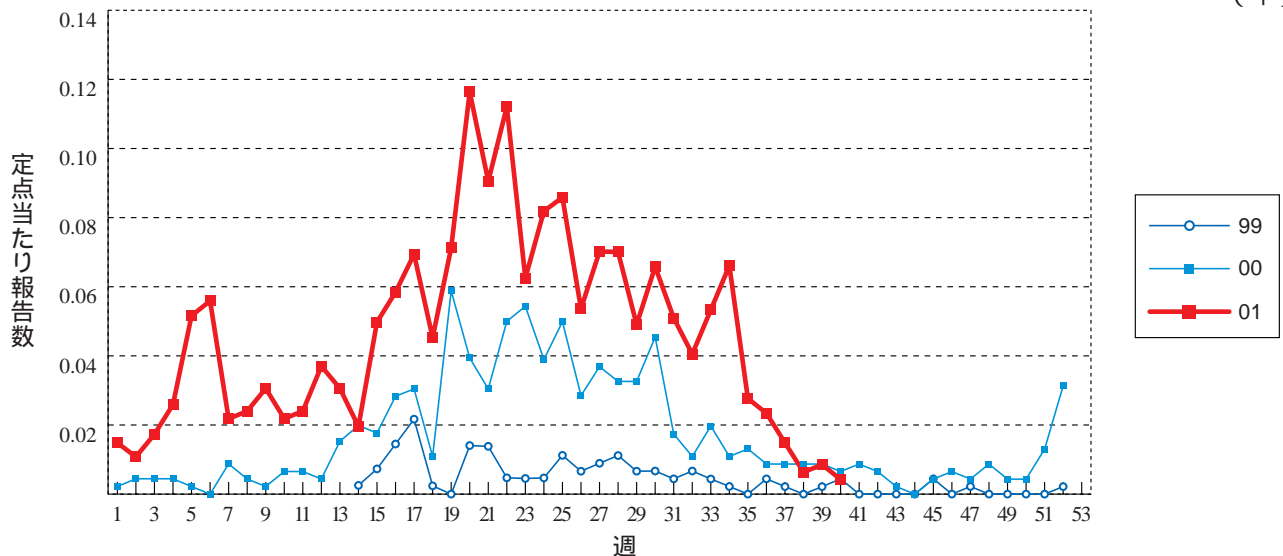
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





40週のデータ

注)表中の報告数は10月12日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年40週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	43	23	517	-	53	1	13		
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	16	-	3	-	-		
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	2	-	-		
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-		
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-		
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-		
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-		
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	2	-	-		
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-		
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	2	-	-		
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	22	-	-	-	-		
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	28	-	4	-	-		
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	7	105	-	15	1	9		
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	36	-	2	-	2		
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	5	-	-	-	-		
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1		
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-		
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	1	-	-		
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	11	-	-	-	-		
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	9	-	1	-	-		
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	30	-	5	-	1		
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	8	-	-	-	-		
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-		
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15	-	-	-	-		
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	2	46	-	6	-	-		
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	28	-	-	-	-		
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	6	-	-	-	-		
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-		
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-		
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-		
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-		
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	11	-	-	-		
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-		
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-		
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	2	-	-		
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-		
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	23	-	1	-	-		
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	5	-	-	-	-		
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	8	-	-	-	-		
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-		
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-		
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-		
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-		
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-		

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年40週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	101	3928	5	303	-	8	-	-	-	27	-	-	10	726
北海道	-	-	-	-	3	138	-	4	-	7	-	-	-	-	-	-	-	9
青森県	-	-	-	-	-	42	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	1
岩手県	-	-	-	-	4	73	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
宮城県	-	-	-	-	-	44	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	25
秋田県	-	-	-	-	4	58	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
山形県	-	-	-	-	1	51	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8
福島県	-	-	-	-	1	51	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
茨城県	-	-	-	-	-	39	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	16
栃木県	-	-	-	-	-	20	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
群馬県	-	-	-	-	22	81	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
埼玉県	-	-	-	-	2	209	-	10	-	-	-	-	-	1	-	-	-	14
千葉県	-	-	-	-	3	356	-	11	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4
東京都	-	-	-	-	2	299	1	85	-	-	-	-	-	7	-	-	1	113
神奈川県	-	-	-	-	1	255	-	28	-	-	-	-	-	-	-	-	1	46
新潟県	-	-	-	-	-	27	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
富山県	-	-	-	-	5	80	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
石川県	-	-	-	-	-	52	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5
福井県	-	-	-	-	-	58	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
山梨県	-	-	-	-	-	15	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
長野県	-	-	-	-	-	58	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
岐阜県	-	-	-	-	1	21	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	1	47
静岡県	-	-	-	-	2	52	-	5	-	-	-	-	-	3	-	-	-	8
愛知県	-	-	-	-	8	162	1	11	-	-	-	-	-	5	-	-	-	17
三重県	-	-	-	-	2	79	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
滋賀県	-	-	-	-	-	43	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
京都府	-	-	-	-	1	87	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
大阪府	-	-	-	-	7	320	-	45	-	-	-	-	-	3	-	-	3	79
兵庫県	-	-	-	-	7	248	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-	1	67
奈良県	-	-	-	-	3	55	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
和歌山県	-	-	-	-	-	15	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
鳥取県	-	-	-	-	-	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
島根県	-	-	-	-	2	90	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	1	65	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26
広島県	-	-	-	-	-	78	-	4	-	-	-	-	-	1	-	-	-	22
山口県	-	-	-	-	-	43	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
徳島県	-	-	-	-	-	13	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
香川県	-	-	-	-	1	15	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
愛媛県	-	-	-	-	2	48	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
高知県	-	-	-	-	-	18	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6
福岡県	-	-	-	-	8	124	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	47
佐賀県	-	-	-	-	1	82	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長崎県	-	-	-	-	1	69	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
熊本県	-	-	-	-	1	38	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
大分県	-	-	-	-	3	38	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
宮崎県	-	-	-	-	-	35	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
鹿児島県	-	-	-	-	-	43	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	19
沖縄県	-	-	-	-	2	21	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年40週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプトスボルジウム症		クロイツフェルト・ヤコブ病		劇症型溶血性レンサ球菌感染症		後天性免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	22	-	-	-	6	1	90	-	37	9	678	-	1	1	108	-	-
北海道	-	2	-	-	-	-	-	2	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	4	-	-	-	2	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	2	-	9	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	17	-	-	-	2	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	10	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	3	-	-	-	-	-	1	-	2	-	27	-	-	-	2	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	3	-	51	-	-	-	2	-	-
東京都	-	7	-	-	-	4	-	7	-	4	3	263	-	-	1	50	-	-
神奈川県	-	1	-	-	-	2	-	4	-	1	-	68	-	-	-	9	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	1	8	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	14	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	5	-	-	-	-	-	2	-	1	1	15	-	-	-	2	-	-
愛知県	-	1	-	-	-	-	1	4	-	3	-	28	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	8	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-
京都府	-	1	-	-	-	-	-	2	-	1	-	7	-	-	-	12	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	9	-	1	1	66	-	-	-	13	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	3	-	16	-	-	-	3	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	4	-	-	-	1	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	4	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	2	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-
高知県	-	1	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	2	-	7	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	1	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	2	-	-	-	1	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年40週

	髄膜炎菌性 髄膜炎		先天性風疹 症候群		炭 疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児 ボツリヌス症		梅 毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	7	-	1	-	-	2	202	-	39	-	27	-	2	-	-	8	409
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	11
青森県	-	-	-	-	-	-	1	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
山形県	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福島県	-	-	-	-	-	-	-	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	6
千葉県	-	1	-	-	-	-	-	3	-	3	-	-	-	-	-	-	-	10
東京都	-	1	-	-	-	-	-	4	-	17	-	-	-	-	-	-	-	76
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-	-	8
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	10	-	1	-	-	-	-	-	-	-	5
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
静岡県	-	-	-	-	-	-	1	2	-	1	-	-	-	-	-	-	1	6
愛知県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	12
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3
京都府	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	21
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	90
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4	-	-	-	-	1	18
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	6	-	-	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
広島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	3
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	4
福岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	19
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
大分県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
宮崎県	-	1	-	1	-	-	-	10	-	-	-	1	-	-	-	-	-	3
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	23	-	-	-	6	-	-	-	-	-	2
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年40週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	59	1	35	-	-	-	-	-	-	-	-	2	86	-	11	1	55
北海道	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	4	-	2
青森県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
宮城県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	2
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山形県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	3
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	4
栃木県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
群馬県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	-	3
千葉県	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	2
東京都	-	3	1	12	-	-	-	-	-	-	-	-	36	-	3	-	-	9
神奈川県	-	4	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	1
新潟県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
石川県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
岐阜県	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
静岡県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	3
愛知県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	6
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1
大阪府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	1
兵庫県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	1
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2
島根県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2
広島県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-
山口県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
徳島県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
佐賀県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	1

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成13年40週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水 痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百 日 咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	77	0.02	175	0.06	1645	0.54	6154	2.04	1762	0.58	1686	0.56	503	0.17	2681	0.89	43	0.01
北海道	9	0.04	15	0.10	172	1.19	176	1.21	119	0.82	192	1.32	23	0.16	92	0.63	2	0.01
青森県	3	0.05	-	-	16	0.38	56	1.33	23	0.55	32	0.76	21	0.50	21	0.50	-	-
岩手県	-	-	-	-	8	0.22	36	0.97	51	1.38	13	0.35	4	0.11	21	0.57	-	-
宮城県	3	0.03	2	0.03	34	0.58	150	2.54	35	0.59	61	1.03	21	0.36	60	1.02	-	-
秋田県	-	-	2	0.06	23	0.66	48	1.37	25	0.71	44	1.26	10	0.29	21	0.60	-	-
山形県	2	0.04	-	-	45	1.50	43	1.43	39	1.30	70	2.33	6	0.20	26	0.87	1	0.03
福島県	-	-	1	0.02	23	0.48	86	1.79	42	0.88	50	1.04	7	0.15	50	1.04	-	-
茨城県	1	0.01	3	0.04	32	0.44	104	1.42	26	0.36	27	0.37	12	0.16	47	0.64	1	0.01
栃木県	-	-	2	0.04	18	0.39	98	2.13	13	0.28	6	0.13	8	0.17	31	0.67	-	-
群馬県	-	-	-	-	35	0.57	79	1.30	45	0.74	15	0.25	7	0.11	69	1.13	1	0.02
埼玉県	3	0.01	17	0.11	98	0.62	417	2.62	91	0.57	58	0.36	33	0.21	156	0.98	6	0.04
千葉県	-	-	7	0.05	74	0.58	223	1.74	62	0.48	56	0.44	20	0.16	95	0.74	2	0.02
東京都	1	0.01	5	0.04	16	0.11	220	1.55	52	0.37	26	0.18	15	0.11	77	0.54	1	0.01
神奈川県	1	0.00	12	0.06	74	0.36	365	1.77	76	0.37	117	0.57	15	0.07	246	1.19	3	0.01
新潟県	-	-	8	0.14	45	0.76	145	2.46	68	1.15	62	1.05	3	0.05	56	0.95	-	-
富山県	-	-	-	-	41	1.41	46	1.59	17	0.59	14	0.48	3	0.10	29	1.00	-	-
石川県	-	-	-	-	10	0.34	90	3.10	25	0.86	29	1.00	1	0.03	28	0.97	-	-
福井県	-	-	1	0.05	9	0.41	87	3.95	14	0.64	21	0.95	6	0.27	29	1.32	-	-
山梨県	5	0.12	-	-	9	0.36	32	1.28	31	1.24	-	-	1	0.04	17	0.68	-	-
長野県	-	-	11	0.20	69	1.28	107	1.98	30	0.56	59	1.09	3	0.06	45	0.83	2	0.04
岐阜県	12	0.16	3	0.06	12	0.26	48	1.02	22	0.47	28	0.60	9	0.19	32	0.68	-	-
静岡県	-	-	8	0.09	39	0.45	210	2.44	39	0.45	61	0.71	10	0.12	88	1.02	1	0.01
愛知県	1	0.01	13	0.07	101	0.55	279	1.53	58	0.32	173	0.95	34	0.19	144	0.79	2	0.01
三重県	-	-	8	0.18	16	0.36	162	3.60	44	0.98	28	0.62	30	0.67	58	1.29	-	-
滋賀県	-	-	2	0.06	4	0.13	29	0.94	23	0.74	15	0.48	12	0.39	13	0.42	1	0.03
京都府	2	0.02	1	0.01	37	0.49	240	3.16	47	0.62	47	0.62	15	0.20	50	0.66	-	-
大阪府	3	0.01	8	0.04	55	0.28	333	1.73	69	0.36	28	0.15	21	0.11	134	0.69	8	0.04
兵庫県	-	-	3	0.02	33	0.26	363	2.84	99	0.77	28	0.22	12	0.09	135	1.05	1	0.01
奈良県	-	-	-	-	6	0.17	90	2.57	14	0.40	25	0.71	13	0.37	28	0.80	1	0.03
和歌山県	-	-	-	-	14	0.45	45	1.45	25	0.81	18	0.58	2	0.06	34	1.10	-	-
鳥取県	-	-	-	-	48	2.53	70	3.68	19	1.00	18	0.95	1	0.05	20	1.05	-	-
島根県	-	-	2	0.09	3	0.13	46	2.00	11	0.48	10	0.43	-	-	18	0.78	-	-
岡山県	-	-	2	0.04	15	0.28	68	1.26	31	0.57	25	0.46	2	0.04	30	0.56	-	-
広島県	3	0.03	8	0.11	51	0.68	173	2.31	41	0.55	44	0.59	7	0.09	56	0.75	1	0.01
山口県	-	-	4	0.08	46	0.94	163	3.33	26	0.53	13	0.27	12	0.24	56	1.14	1	0.02
徳島県	-	-	-	-	18	0.78	46	2.00	20	0.87	21	0.91	6	0.26	16	0.70	-	-
香川県	-	-	-	-	7	0.22	64	2.00	13	0.41	41	1.28	13	0.41	29	0.91	-	-
愛媛県	-	-	2	0.05	38	0.97	129	3.31	21	0.54	18	0.46	9	0.23	48	1.23	1	0.03
高知県	-	-	1	0.03	23	0.74	43	1.39	20	0.65	1	0.03	5	0.16	22	0.71	-	-
福岡県	-	-	7	0.07	79	0.75	315	3.00	73	0.70	9	0.09	23	0.22	137	1.30	1	0.01
佐賀県	-	-	1	0.04	12	0.52	24	1.04	22	0.96	5	0.22	3	0.13	32	1.39	-	-
長崎県	-	-	3	0.06	5	0.10	74	1.54	20	0.42	6	0.13	9	0.19	35	0.73	2	0.04
熊本県	-	-	2	0.04	43	0.88	114	2.33	27	0.55	43	0.88	13	0.27	67	1.37	-	-
大分県	1	0.02	3	0.08	13	0.36	122	3.39	18	0.50	4	0.11	6	0.17	68	1.89	-	-
宮崎県	1	0.02	3	0.08	53	1.43	144	3.89	30	0.81	2	0.05	12	0.32	52	1.41	3	0.08
鹿児島県	14	0.14	5	0.08	18	0.30	127	2.12	39	0.65	17	0.28	5	0.08	52	0.87	1	0.02
沖縄県	12	0.21	-	-	5	0.15	25	0.74	7	0.21	6	0.18	-	-	11	0.32	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成13年40週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	24	0.01	802	0.27	125	0.04	4029	1.33	25	0.04	651	1.03	1	0.00	2	0.00	30	0.06
北海道	-	-	124	0.86	10	0.07	187	1.29	-	-	41	1.41	-	-	-	-	-	-
青森県	2	0.05	14	0.33	1	0.02	62	1.48	-	-	14	1.27	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	33	0.89	-	-	33	0.89	-	-	7	0.58	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	35	0.59	2	0.03	47	0.80	-	-	2	0.18	-	-	-	-	-	-
秋田県	2	0.06	34	0.97	-	-	32	0.91	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	10	0.33	-	-	53	1.77	-	-	3	0.38	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	11	0.23	-	-	83	1.73	-	-	22	1.83	-	-	-	-	-	-
茨城県	3	0.04	3	0.04	5	0.07	73	1.00	-	-	30	1.88	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	3	0.07	1	0.02	29	0.63	-	-	24	2.00	-	-	-	-	1	0.14
群馬県	-	-	4	0.07	2	0.03	38	0.62	1	0.07	20	1.43	-	-	-	-	1	0.10
埼玉県	-	-	29	0.18	6	0.04	136	0.86	1	0.03	32	0.91	1	0.11	-	-	4	0.44
千葉県	2	0.02	24	0.19	6	0.05	81	0.63	1	0.03	33	1.00	-	-	-	-	-	-
東京都	3	0.02	39	0.27	1	0.01	82	0.58	1	0.07	19	1.36	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	20	0.10	4	0.02	182	0.88	7	0.17	31	0.74	-	-	-	-	1	0.09
新潟県	-	-	9	0.15	-	-	172	2.92	-	-	7	0.78	-	-	-	-	2	0.15
富山県	-	-	16	0.55	-	-	121	4.17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	3	0.10	1	0.03	204	7.03	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	9	0.41	-	-	31	1.41	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	3	0.12	-	-	39	1.56	-	-	2	0.67	-	-	-	-	2	0.20
長野県	-	-	26	0.48	-	-	164	3.04	-	-	15	1.50	-	-	-	-	1	0.09
岐阜県	-	-	2	0.04	1	0.02	85	1.81	1	0.09	5	0.45	-	-	-	-	-	-
静岡県	1	0.01	6	0.07	6	0.07	99	1.15	-	-	8	0.40	-	-	1	0.13	-	-
愛知県	1	0.01	21	0.12	23	0.13	246	1.35	-	-	21	0.60	-	-	-	-	1	0.08
三重県	2	0.04	5	0.11	1	0.02	70	1.56	1	0.08	2	0.17	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	23	0.74	-	-	3	0.43	-	-	-	-	2	0.29
京都府	-	-	11	0.14	3	0.04	66	0.87	-	-	19	1.06	-	-	-	-	-	-
大阪府	1	0.01	39	0.20	10	0.05	189	0.98	3	0.06	25	0.48	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	14	0.11	-	-	120	0.94	1	0.03	34	0.97	-	-	-	-	1	0.07
奈良県	2	0.06	1	0.03	5	0.14	43	1.23	-	-	5	0.56	-	-	-	-	2	0.33
和歌山県	-	-	6	0.19	1	0.03	58	1.87	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	15	0.79	-	-	6	0.32	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	3	0.13	-	-	12	0.52	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	8	0.15	-	-	61	1.13	-	-	10	0.83	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	20	0.27	-	-	53	0.71	-	-	16	0.80	-	-	-	-	6	0.29
山口県	-	-	20	0.41	2	0.04	30	0.61	3	0.33	11	1.22	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	3	0.13	-	-	32	1.39	-	-	1	0.25	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	6	0.19	-	-	43	1.34	-	-	6	2.00	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	21	0.54	-	-	77	1.97	-	-	12	1.71	-	-	-	-	1	0.17
高知県	-	-	12	0.39	-	-	6	0.19	-	-	3	1.00	-	-	-	-	-	-
福岡県	1	0.01	26	0.25	8	0.08	259	2.47	-	-	50	2.08	-	-	-	-	1	0.07
佐賀県	1	0.04	4	0.17	-	-	85	3.70	-	-	1	0.25	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	1	0.02	10	0.21	37	0.77	5	0.50	14	1.40	-	-	-	-	1	0.07
熊本県	-	-	46	0.94	-	-	95	1.94	-	-	21	2.33	-	-	1	0.07	1	0.07
大分県	2	0.06	25	0.69	8	0.22	46	1.28	-	-	4	0.80	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	23	0.62	-	-	104	2.81	-	-	38	9.50	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	1	0.02	13	0.22	3	0.05	112	1.87	-	-	24	4.00	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	2	0.06	5	0.15	123	3.62	-	-	10	1.00	-	-	-	-	2	0.29

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成13年40週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	112	0.24	7	0.01	2	0.00
北海道	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	1	0.05	-	-	-	-
宮城県	12	1.00	2	0.17	-	-
秋田県	4	0.57	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-
福島県	3	0.43	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	3	0.33	-	-
千葉県	3	0.23	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-
新潟県	3	0.23	-	-	-	-
富山県	1	0.20	-	-	-	-
石川県	1	0.20	-	-	-	-
福井県	1	0.17	-	-	-	-
山梨県	3	0.30	1	0.10	-	-
長野県	1	0.09	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	4	0.50	-	-	-	-
愛知県	15	1.15	-	-	1	0.08
三重県	3	0.33	-	-	-	-
滋賀県	2	0.29	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-
大阪府	4	0.33	-	-	-	-
兵庫県	2	0.14	-	-	1	0.07
奈良県	-	-	-	-	-	-
和歌山県	2	0.18	-	-	-	-
鳥取県	5	1.00	-	-	-	-
島根県	5	0.63	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-
広島県	5	0.24	-	-	-	-
山口県	2	0.22	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-
香川県	1	0.20	-	-	-	-
愛媛県	3	0.50	-	-	-	-
高知県	10	1.25	-	-	-	-
福岡県	1	0.07	-	-	-	-
佐賀県	1	0.17	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-
熊本県	5	0.33	1	0.07	-	-
大分県	3	0.30	-	-	-	-
宮崎県	3	0.43	-	-	-	-
鹿児島県	2	0.17	-	-	-	-
沖縄県	1	0.14	-	-	-	-

感染症週報 第3巻、第40号 平成13年10月19日発行
 発行：国立感染症研究所
 厚生労働省健康局結核感染症課
 厚生労働省大臣官房統計情報部
 事務局：国立感染症研究所感染症情報センター
 〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
 T E L : 03-5285-1111
 F A X : 03-5285-1129
 U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>
 <国立感染症研究所 感染症情報センター>
<http://www.mhlw.go.jp/>
 <厚生労働省>
<http://www.forth.go.jp/>
 <旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所)>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。